

房総の

文化財

VOL. 55



ISSN 0919-0848
Bosō no bunkazai

平成27年10月30日 公益財団法人 千葉県教育振興財団
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2

TEL 043-422-8811 (代) FAX 043-424-4811

http://www.echiba.org/bunkazai_top.html



contents

発掘調査速報

- ◆四街道市古屋城跡
- ◆市川市道免き谷津遺跡
- ◆柏市小山台遺跡

お知らせ

平成27年度出土遺物公開事業

「館山道の遺跡展」～はるかなる西上総の歴史～

講演会

「はるかなる西上総の歴史」
～弥生時代から古墳時代へ～

古屋城跡の大規模な障子堀

こや 四街道市古屋城跡

古屋城跡は、印旛沼に注ぐ鹿島川左岸に位置します。昭和52年に全郭内の井戸跡が調査され、中から中国製の白磁碗、近くからは室町時代の和鏡「亀甲つなぎ散らし双鶴亀鈕鏡」も出土しており、市の指定文化財に指定されています。

今回の調査は第5次調査にあたり、城域の南東端の1,468㎡を対象に、平成27年5月～7月に発掘調査が行われました。その結果、城郭関係の遺構としては、斜面部の台地整形の内部に腰郭と土塁が築かれ、さらに台地平坦部の直下には障子堀という堀が掘られていることがわかりました。

古屋城跡については、まだ本格的な整理作業に着手したばかりなので詳細は不明ですが、昭和52年に発見された中国産白磁などのように中世前期に遡る資料がある一方で、城の縄張り構造や出土した土器の様相から、16世紀代まで下ることが推測され、中世前期から戦国期にかけて比較的長期にわたって使用された城と考えられます。

一方、本城跡と谷を挟んで東に位置する北ノ作遺跡でも、曲輪や腰曲輪、土塁、障子堀など多くの遺構が調査されました。出土遺物からは、15世紀後半～16世紀初頭の年代が想定されますが、その構造から、16世紀後半には常駐しない砦として使われた可能性があります。15世紀には、臼井城の落城や直後の千葉宗家の奪回と本佐倉城の築造などがあり、この地域は鹿島川を挟んで千葉・原氏と臼井氏の対立が生じ、16世紀には戦国大名北条氏と房総南部の里見氏との対立の渦中にあつたものと思われます。こうした事情が構造変化の背景にあつたのでしょう。

古屋城の城主は不明ですが、物井地域の領主層の本城となる可能性が高く、北ノ作遺跡は出城的な性格をもった城へと変容していったことが推測されます。



▲古屋城跡の調査前風景



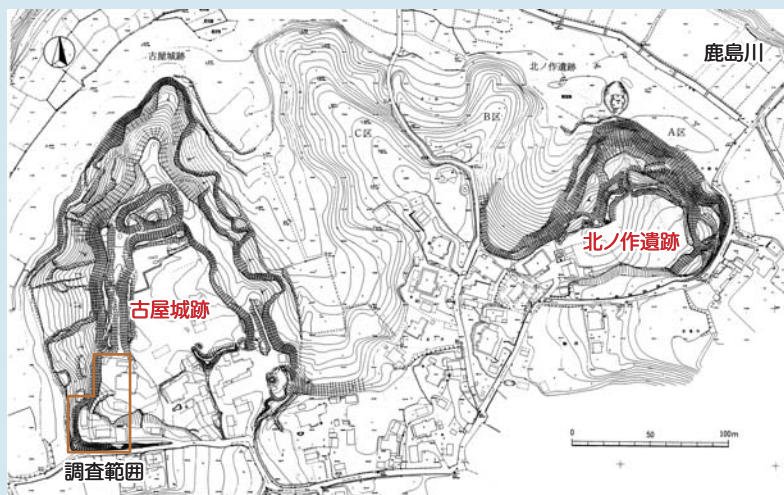
◀斜面部側の土塁と障子堀

障子堀とは、堀底に畝で区画された長方形の深い掘り込みが設けられた防御性の高い堀を指しています。関東ローム層や粘土層が露出しているため水が溜まりやすく、堀の中の敵兵の自由を奪うことができます。



障子堀部分

本城跡の東に位置する北ノ作遺跡でも同様の堀が見つっていますが、戦国時代の関東地方の城に採用され、北条氏の城で発展したものと考えられています。



▲古屋城跡と北ノ作遺跡の航空写真

◀古屋城跡と北ノ作遺跡

旧石器時代

約30,000年前

縄文時代

約12,000年前

時代

弥生

約2,300年前

小山台遺跡

道免き谷津遺跡

BC(紀元前)

市川市道免き谷津遺跡

道免き谷津遺跡は、市川市の北部、国指定史跡・堀之内貝塚のある台地の南に広がる谷津内に所在し、縄文時代後期～晩期を中心とする遺構や遺物が発見されています。

今回紹介する道免き谷津遺跡第1地点(12)は、平成26年7月～11月まで

調査が行われ、焼土集中地点や排水遺構、足場状遺構などとともに、縄文土器や石器のほか、多量の木製品が発見されました。

◀赤漆塗りの木製品(耳飾り)

この木製品は、全体に赤色の漆が施されています。円盤となる本体部分の表面には、中央に2つの同心円、外側に台形状と葉のような模様を組み合わせた彫刻が見られます。裏面は無文で、本体部分から円形の筒が2cmほどのびています。円盤の直径は6.9cm、全体の高さは2.6cmを測ります。

部分的に黒色の漆が観察されることから、漆は何層かに塗られ、最後に赤色の顔料を混ぜた漆が装飾用に塗られたようです。

あまり類例のない形態ですが、耳飾りのようなものとして使われたのではないのでしょうか。



▲調査風景



▲足場状木材出土状況

柏市小山台遺跡

小山台遺跡は、平成11年度から調査を開始し、これまで70次をこえる発掘調査が行われ、現在も継続しています。その結果、多量の遺物とともに大規模な縄文時代中期の集落が確認されています。特に、中央の広場を囲むように、竪穴住居や貯蔵穴・墓などが円形に配置される「環状集落」と呼ばれる、この時期特有の集落形態が複数存在することなど、この地域の拠点集落として注目されています。

小山台遺跡(58)は、平成26年5月～7月に763㎡を対象に調査され、小面積ながら縄文時代の竪穴住居跡15軒、土坑46基などが密集して確認されました。環状集落の一部を構成するものと思われます。右の写真はその一部で、密集して竪穴住居が営まれていたようすがわかります。

中央に埋葬施設をもつ方形周溝状遺構 ▶ (小山台遺跡(70))

縄文時代の集落が圧倒的に多い中で、小山台遺跡(70)では、平安時代末～鎌倉時代にかけての方形周溝状遺構が確認されています。現在調査中ですが、1辺の長さが10mほどの大きさになります。中央部分には、長さ2.5m、幅1.2mの埋葬施設が設けられていました。

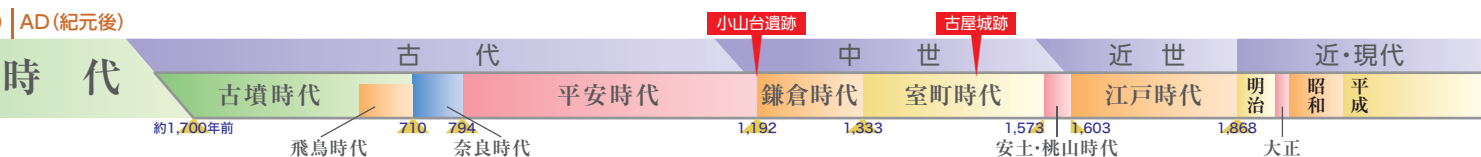


▲重なり合った縄文時代中期の竪穴住居跡 (小山台遺跡(58))



▲埋葬施設の遺物出土状況

底面などから見つかった土器から、平安時代末から鎌倉時代にかけて埋葬されたものと考えられます。



平成27年度出土遺物公開事業 「館山道の遺跡展」講演会

「はるかなる西上総の歴史ー弥生時代から古墳時代へー」

のお知らせ

館山道(東関東自動車道千葉・富津線)の建設に伴って調査された遺跡の中から、弥生時代から古墳時代にかけての大規模な集落の発見により注目された君津市鹿島台遺跡を中心に、講演・発表を行います。

弥生時代を中心とした日本列島各地の文化の多様性と相互の関係を研究し、弥生時代研究の第一人者として知られています明治大学文学部長の石川日出志教授には、邪馬台国時代の房総についての特別講演をしていただきます。そのほか、西上総や君津地域において調査・研究の最前線で活躍しております研究者の講演や発表を交えて、弥生時代から古墳時代へと移っていく激動の時代を解説します。

日 時：平成27年11月7日(土)
10:30～15:30(受付・開場10:00～)

場 所：君津市生涯学習交流センター 2階
多目的ホール(君津市役所隣り)
君津市久保2丁目13番2号

定 員：先着250名(イスのみの使用)

申込み：事前申込みは不要です。

参加費：無料

主 催／(公財)千葉県教育振興財団
後 援／千葉県教育委員会・木更津市教育委員会
君津市教育委員会・富津市教育委員会
袖ヶ浦市教育委員会

日 程

発 表

「弥生時代から古墳時代の拠点集落ー鹿島台遺跡の調査①ー」
(公財)千葉県教育振興財団 小林 清隆 10:40～11:20

「弥生時代の環濠と墓ー鹿島台遺跡の調査②ー」 11:20～11:40
君津市教育委員会 當眞 紀子

質 疑 応 答 11:40～12:00

講 演

「西上総の弥生時代から古墳時代へ」 13:00～14:00
木更津市教育委員会 酒巻 忠史

特別講演

「邪馬台国時代と房総」 14:00～15:30
明治大学文学部長 石川 日出志

今後の展示

平成27年度出土遺物公開事業

「館山道の遺跡展」

「はるかなる西上総の歴史」

開催館と主な展示資料

木更津市郷土博物館金のすず

(10月24日(土)～12月23日(水))

- 旧石器時代：房総最古級の環状ブロック
(袖ヶ浦市関畑遺跡局部磨製石斧・台形様石器)
- 縄文時代：環状盛土遺構の大集落(君津市三直貝塚縄文土器・土偶・石製品)
- 弥生時代：環濠集落と墓(君津市鹿島台遺跡弥生土器・玉類・土製品)
- 古墳時代：ムラから古墳へ(君津市鹿島台遺跡鯨面埴輪・船が描かれた須恵器・鉄製品)
- 奈良・平安時代：条里制と生産(君津市三直中郷遺跡灰釉獣脚・土器・木製農耕具) 密集する火葬墓(君津市踊ヶ作遺跡骨蔵器)
- 中 世：真里谷武田氏の居城と攻防(木更津市笹子城跡水晶製五輪塔・陶磁器、富津市根木田入口山脇跡陶磁器・石製品)

《参考展示》土器崎遺跡 縄文時代朱塗り埴輪 丹過遺跡 畿内系土師器・瓦塔・土器



▲土器崎遺跡の埴輪



▲笹子城跡の水晶製五輪塔ミニチュア

袖ヶ浦市郷土博物館

(平成28年1月5日(土)～2月14日(日))

- 旧石器時代：房総最古級の環状ブロック(袖ヶ浦市関畑遺跡局部磨製石斧・台形様石器)、環状ブロック以降の石器群(袖ヶ浦市台山遺跡ナイフ形石器・石刃・彫器)
- 古墳時代：前期のムラと方形周溝墓(袖ヶ浦市台山遺跡土器・玉類) 尾根上にそびえる古墳群(袖ヶ浦市椿古墳群銅鍔・銀象嵌鍔・土器)
- 中 世：市のにぎわい(袖ヶ浦市山谷遺跡陶磁器・土器・石製品・銭貨)

《参考展示》袖ヶ浦市上宮田台遺跡 縄文土器・土偶・動物形土製品・土版・耳飾り



◀上宮田台遺跡の動物形土製品



椿古墳群の全景▶